

## 第Ⅱ章

---

# 東広島市の環境の現状

---



## 第1節 東広島市の概況

本節では、本市の概況として、沿革や位置、人口・世帯数、気象、土地利用、産業構造の概要を整理しました。

### 1 本市の沿革

- ・本市は、昭和49年に賀茂郡内の西条町、八本松町、志和町、高屋町の4町が合併し、広島県内で12番目の市として誕生しました。
- ・平成17年2月7日に、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町、安芸津町と合併し、現在の市域となりました（総面積は635.32km<sup>2</sup>）。

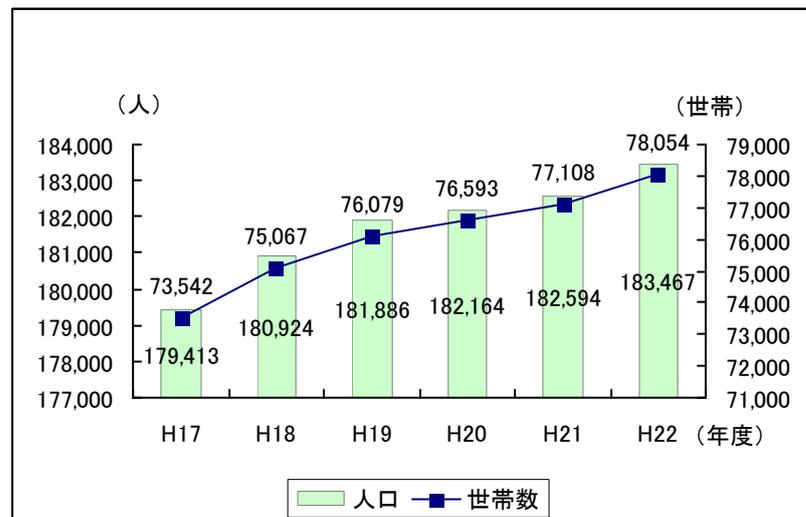
### 2 本市の位置

- ・本市は、広島県の瀬戸内海側、ほぼ中央部に位置し、市域の北側では安芸高田市、三次市、世羅郡世羅町、東側では三原市、南側では竹原市、呉市、豊田郡大崎上島町、西側では広島市、安芸郡熊野町と接しています。

### 3 人口・世帯数

- ・本市の平成23年3月末の人口は、183,467人です。
- ・旧東広島市域（西条町、八本松町、志和町、高屋町）に全人口の約73%が集中していますが、そのうちの約50%が西条町に集中しています。
- ・全市的には、人口、世帯数ともに増加傾向ですが、人口については、西条町、八本松町以外の地域では横ばいまたは減少傾向にあります。

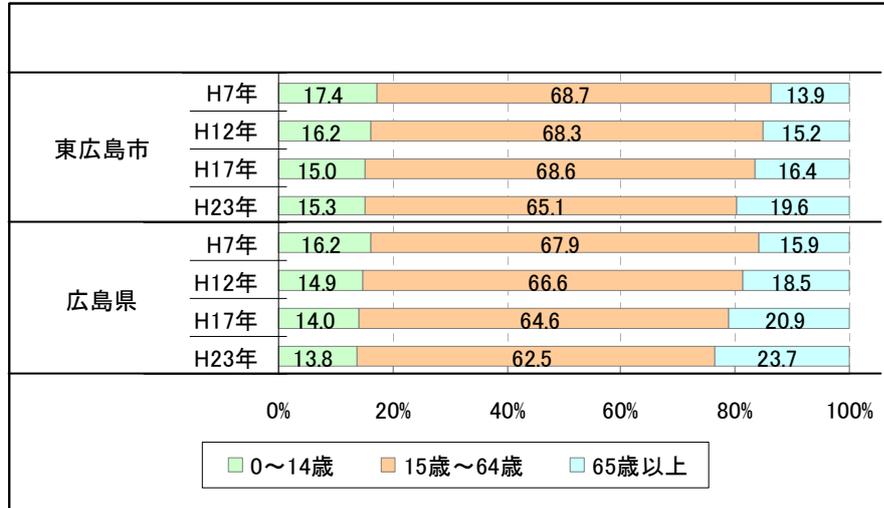
人口・世帯数の推移



(住民基本台帳、外国人登録)

- ・ 年齢3区分の人口割合の推移をみると、幼年人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）がともに減少し、老年人口（65歳以上）が増加しており、少子高齢化が進んでいます。  
 なお、広島県の割合と比較すると、幼年人口、生産年齢人口の割合が高く、老年人口の割合は低くなっています。

年齢3区分別人口の推移

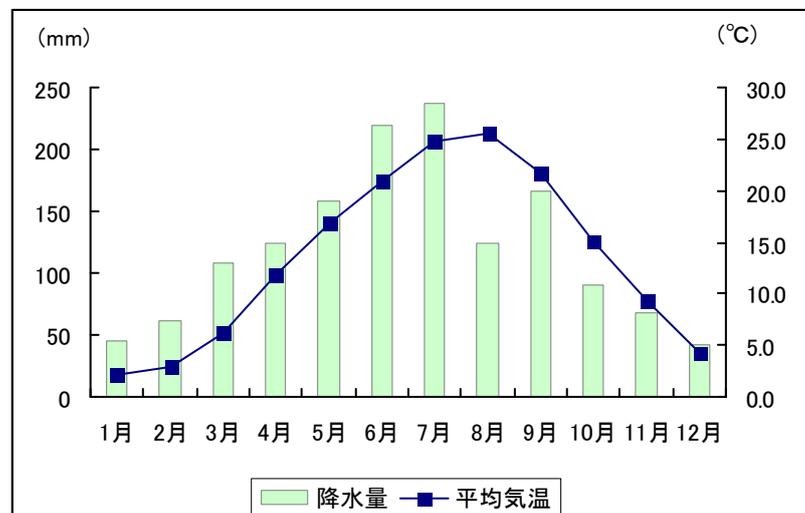


(H7年、H12年、H17年は国勢調査、H23年は住民基本台帳)

## 4 気象

- ・ 東広島地域気象観測所における昭和56年から平成22年までの30年間の月別降水量の平均値をみると、特に梅雨の時期の7月が多くなっています。
- ・ 月別平均気温をみると、1月が最も低く8月が最も高くなっています。また、昭和56年と平成22年を比べると、年平均気温が1.7℃上昇しています。
- ・ 昭和54年から平成22年の年間の平均日照時間は1,889時間で、平成2年から平成20年の全国平均の1,896時間（日本統計年鑑 平成23年：総務省）と比べると、ほぼ同程度となっています。

30年間の月別降水量・気温

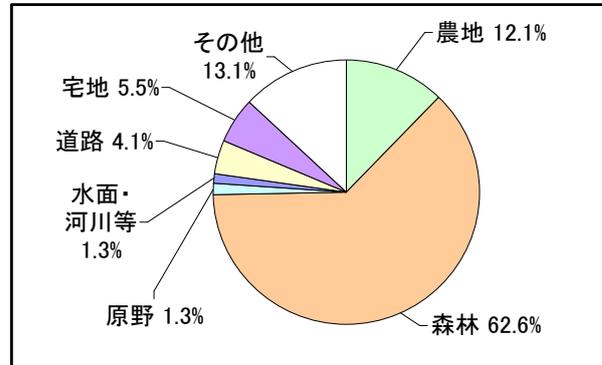


(気象庁ホームページ気象統計情報)

## 5 土地利用

- 本市は、市域の周囲を森林が取り囲み、その内側に広がる平坦地において、主に幹線道路沿いや鉄道の駅を中心に宅地が形成され、また、市街地の周辺に農地が広がっています。
- 平成20年度の市域の土地利用の構成をみると、森林、原野、水面・河川等を含む自然的土地利用が65.2%となっており、宅地等の都市的土地利用が22.7%となっています。
- 本市の土地利用の12.1%を占める農地は、その約89%が水田であり、広島県最大の稲作地帯を形成しています。

平成20年度における地目別  
土地利用面積割合

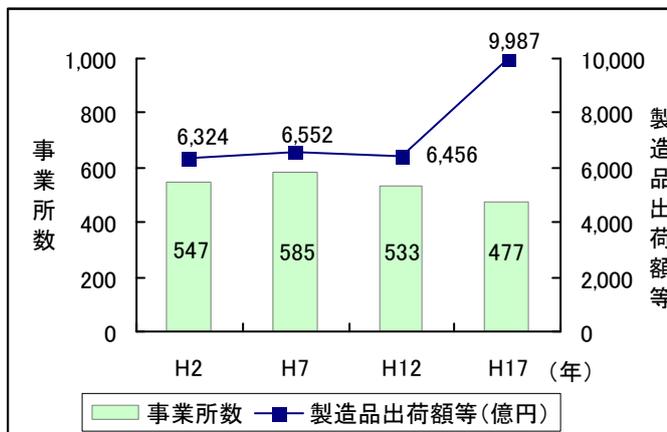


(東広島市調べ)

## 6 産業構造

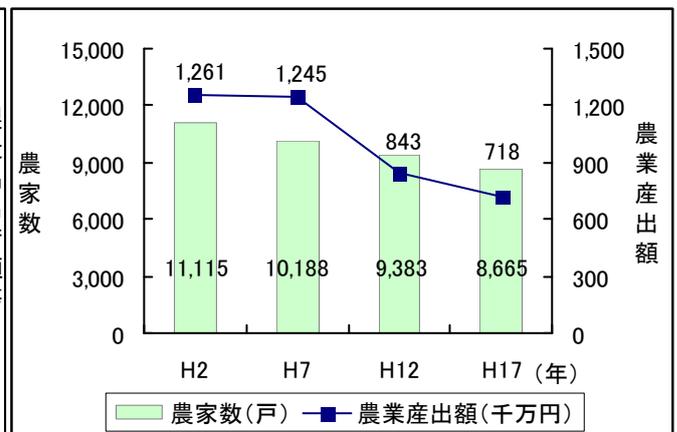
- 本市の市内総生産は、広島県全体と比較して第1次産業、第3次産業の割合が低く、第2次産業の割合が高いという産業構造となっています。
- 平成20年度の市内総生産の産業大分類の内訳をみると、本市の基幹産業である製造業が42.3%と最も高い割合を占めており、次いでサービス業16.4%、不動産業11.5%となっています。
- 製造業事業所数は、平成7年の585事業所から平成17年には477事業所と減少傾向にあるものの、製造品出荷額等は平成7年と平成17年を比較すると、約52%増加しています。一方、本市は、広島県最大の稲作地帯ですが、農家数、農業産出額は、減少傾向にあります。

製造業事業所数、製造品出荷額等の推移



(工業統計調査)

農家数、農業産出額の推移



(広島農林水産統計年報)